



■内覧会

日時／4月10日(金) 14:30~17:00

会場／上田市立美術館 展示室

報道向け展示解説／担当学芸員 山極佳子 14:30~ (30分程度)

20世紀日本が模索した「美しいユートピア」

この展覧会では、暮らしにまつわる過去をたずね、未来を夢みるさまざまな運動を「ユートピア」と呼びます。そして「美しさ」にまつわる芸術、装飾工芸、建築デザインにテーマを絞り、山本鼎、柳宗悦、宮澤賢治、竹久夢二の美術運動、松本竣介らの作品、デザイン・サーヴェイ、アントニン・レーモンド、井上房一郎、ブルーノ・タウトの関連資料といった多岐にわたる展示品をもとに、暮らしの中の「美しいユートピア」をみつめます。

ユートピアは、イギリスの思想家トマス・モアの著作タイトルで、「どこにもない場所」を意味します。同じくイギリスの思想家、ウィリアム・モリスは自著『ユートピアだより』の中で、暮らしと芸術の総合を唱え、今ここにある課題をみつめ、どこにもない理想を夢んでいます。その思想が紹介された20世紀の日本でも、ユートピアは暮らしをめぐる課題と理想となりました。そして20世紀を通じあらゆる場所で、美術、工芸、建築など幅広いジャンルを結ぶ共同体が模索されます。新時代の異文化体験を通して近代化しつつあった日本は、かつての日本でもなく、同時代の世界のどこにもない場所だったのです。

本展では、美しい暮らしを求める20世紀日本のユートピアをたずね、当時の来るべき世界を振り返り、今日のユートピアを思い描く方法を探ります。



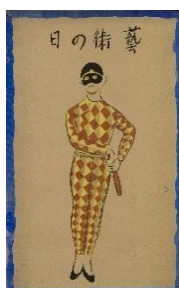
ブルーノ・タウト「ヤーンバスケット」1934-36年
群馬県立歴史博物館蔵



宮澤賢治《日輪と山》制作年不詳
林風舎蔵、資料提供＝林風舎



竹久夢二《榛名山賦》(複製)1931年
公益財団法人竹久夢二伊香保記念館蔵



山本鼎「芸術の会ポスター-《芸術の日》」1922年
上田市立美術館蔵



鶴岡政男《夜の群像》1949年
群馬県立近代美術館蔵



松本竣介《立てる像下絵》1942年
神奈川県立近代美術館蔵



■美しいユートピアー理想の地を夢みた近代日本の群像ー

会期 2026年4月11日(土)～6月7日(日)

会場 サントミュージゼ 上田市立美術館

休館 火曜日、5月7日(木)

※5月5日(火)、5月6日(水)は祝日のため開館

時間 9:00～17:00 (最終入場は16:30まで)

料金 当日券 一般1,200円／高校・大学生500円／小・中学生300円

※山本鼎コレクション展示も観覧可。

前売券販売中 4月10日(金)まで 一般のみ1,000円

プレイガイド 上田市立美術館ミュージアムショップ(9:00～17:00・火曜休館)

主催 ユートピア展上田実行委員会(上田市・上田市教育委員会・テレビ信州)

後援 一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本建築家協会

企画協力 株式会社TNC プロジェクト

※会期中、一部展示替えがあります。(詳細は4月11日以降ホームページにて公開)

■リピート割引

観覧済みの半券提示で、当日一般料金(1,200円)を、1,000円でご購入いただけます。

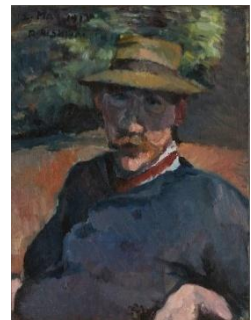
■展覧会概要

第1章 ユートピアへの憧れ 1849-1929

イギリスの思想家ジョン・ラスキン、ウィリアム・モリスの影響により、暮らしと美術をめぐる理想が、日本でも唱えられるようになります。西洋美術の窓口となった白樺派同人たちの目は、柳宗悦を中心として、やがて民衆の暮らしの中に向けられることになりました。「民藝」運動は、西洋に憧れ、ひるがえって自らの暮らしに美を見出し、「かくあらねばならぬ」理想を追い求めることから始まったのです。



ウィリアム・モリス著、ケルムスコット・プレス刊『ユートピア便り』1892年、TOPPANホールディングス株式会社 印刷博物館蔵

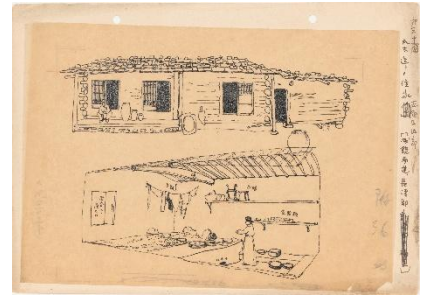


岸田劉生《B.L.の肖像(バーナード・リー子像)》1913年、東京国立近代美術館蔵



第2章 たずね求める 周縁、国外でのフィールドワーク 1917-1943

近代化が加速する中で、失われていく「民」の暮らしを見つめなおす動きが見られるようになります。建築家・今(こん)和次郎・純三 兄弟による民家・農村生活を記録したドローイングは、約 100 年前の東北や朝鮮の暮らしを今に伝えます。また、財界人・渋沢敬三の自邸に私設された「アチックミュージアム(屋根裏の博物館)」や民俗学を推し進めた人々、そして彼らが目指す民俗学博物館構想の関係資料・図面を展示します。



今和次郎「丸太作りの住みか正面及内部(咸鏡南道)」1922年、工学院大学 学術情報センター工手の泉蔵

そのほか、芸術家・山本鼎による日本統治時代・台湾の工芸調査の記録などもご紹介します。

第3章 夢みる 都市と郊外のコミュニティ 1926-1949

関東大震災以降、膨張する都市に対し、郊外や田園によりよい暮らしが求められるようになっていきました。同時期、各所で芸術家村やコロニーも生まれていきます。分離派建築家の蔵田周忠



鶴岡政男《夜の群像》1949年、群馬県立近代美術館蔵



建築：立原道造、模型：文化学園大学種田ゼミ「模型 ヒアシンハウス」2025年、文化学園大学種田ゼミ蔵、協力：津村泰範(ヒアシンハウスの会)、渡邊裕子(文化学園大学)

は、郊外に芸術家たちが集って住む住宅群を設計しています。また、詩人であり建築家の立原道造は、毎夏に訪れていた軽井沢・追分の地に芸術家コロニーを幻想しました。

一方で、多くの若き芸術家が生活した「池袋モンパルナス」での交友から、巖光、鶴岡政男、松本竣介らの「新人画会」が誕生します。作品や文章から、戦後美術の出発点となった彼らの理想をたどります。

第4章 試みる それぞれの「郷土」で 1919-1936

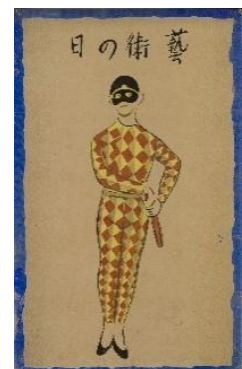
「郷土」の中から、美しい暮らしの実践を試みた人々がいました。

信州・神川村(現上田市)で山本鼎がおこした農民美術運動を始め、榛名湖畔にアトリエを構えた竹久夢二の「榛名山美術研究所」構想。群馬県の実業家、井上房一郎が、建築



ブルーノ・タウト「ヤーンバスケット」1934-36年、群馬県立歴史博物館蔵

家、ブルーノ・タウトを招いて始めた工芸運動をご紹介します。特に井上房一郎は、県の運動を支援し、県もまた井上のフランス留学の世話をするな



山本鼎「芸術の会ポスター《芸術の日》」1922年、上田市立美術館蔵

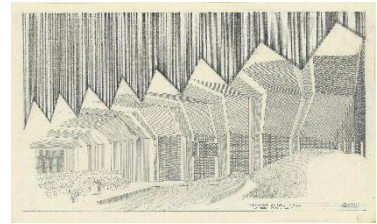


どといった間柄で、長年親交があった人物です。今回、上田市立美術館の顕彰作家である鼎と、井上の両運動を当館で初めて並べて展示いたします。

また、童話や詩で知られる宮澤賢治の、花巻の農村に根差した活動や「農民藝術」の提唱についてご紹介。賢治直筆の絵(会期中展示替えあり)も展示します。

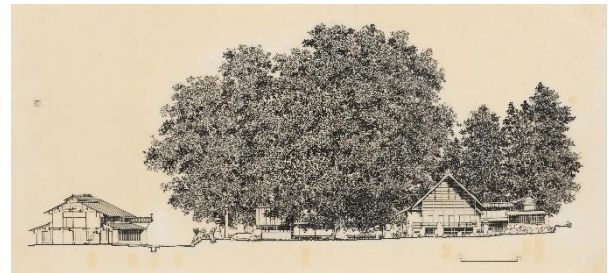
第5章 ふりかえる／よみがえる ユートピアのゆくえ 1958-1993

戦後、井上房一郎は地元高崎で芸術・建築の力による都市再生を目指しました。市民の建設運動と、建築家・デザイナー夫妻であるアントニン&ノエミ・レーモンドとの協働により、群馬音楽センターが設立。また当時は新進気鋭だった磯崎新を抜擢して建てた群馬県立近代美術館は、現在でも「世界の美術館の原型」として、大きな影響力を持つ建築物です。



アントニン・レーモンド「群馬音楽センター内観透視図」1958年、レーモンド設計事務所蔵
©The Raymond Family

また、60年代後半からは、高度経済成長にともなって消えゆく共同体の姿をとらえるため、集落実態調査「デザイン・サーヴェイ」が行われます。それは単なる過去のふりかえりではなく、発展していく日本の都市や建築が向かうべき姿を模索するものでした。



工学院大学建築学科伊藤ていじ研究室「旧海野宿南北断面図」1979年、工学院大学 学術情報センター工手の泉蔵

■ 展覧会関連イベント(全て取材可能です)

◎ 記念講演会 祖父、清六から聞いた宮澤賢治

賢治の実弟・清六氏の孫にあたる宮澤和樹氏をお招きし、「賢治さん」の美術・宗教・科学に対する考え方、日常での様子、『雨二モ負ケズ…』の願いなど、家族こそが知るその姿をうかがいます。

日時／5月9日(土) 10:00～11:30

講師／宮澤和樹氏(宮澤賢治の実弟清六の孫、株式会社 林風舎代表取締役)

会場／サントミュージゼ 多目的ルーム

定員／60名 ※事前申込制・先着

参加要件／「美しいユートピア(上田会場)」の観覧券または半券を提示

(前売券・4/11～5/8に観覧済みの半券も可)

申込／2026年4月22日(水)9:00～5月6日(水)17:00までにサント

ミュージゼホームページ応募フォームから。



◎本展企画 3 館の学芸員によるギャラリートーク

日時／4月18日(土)14:00～

[ゲスト]住田常生氏(高崎市美術館)

4月25日(土)14:00～

[ゲスト]大村理恵子氏(パナソニック汐留美術館)

5月23日(土)14:00～

山極佳子(上田市立美術館)

会場／上田市立美術館 展示室 ※要展覧会観覧券

申込／不要

◎群馬交響楽団 弦楽四重奏

ナイトミュージアムコンサート

当サントミュージゼの定期演奏会でもおなじみの群馬交響楽団から、弦楽四重奏をお招きしての演奏会。

同楽団は、日本でもっとも早い時期に活動を開始した本格的なプロオーケストラとして知られています。上田ゆかりの芸術家・山本鼎とも親交のあった創設者・井上房一郎は、戦後の荒廃の中で文化を通じた復興を目指しました。また井上は、ながらく楽団の拠点であった群馬音楽センターの建設にも携わっています。アントニン・レーモンド建築のこの施設は「理想の公共建築」とも評され、そこで奏でられる音楽の力で人々の心に灯をともし役割を担ったのでした。

本展では、そんな群馬音楽センターの図面を始めとした関連資料を展示します。設立に力を注いだ人々に思いをはせながら、夜の展示室で音楽と美術を楽しんでみませんか。

日時／5月30日(土)18:00～20:30

(演奏は18:30から40分程度。前後で展覧会鑑賞可)

出演／群馬交響楽団 弦楽カルテット

第一ヴァイオリン:西谷康子

第二ヴァイオリン:山田修平

ヴィオラ:太田玲奈

チェロ:中田英一郎



プレスリリース

上田市

会場／上田市立美術館 展示室

定員／50名 ※事前申込制・先着

料金／1,700円(イベント参加のための観覧券は受付時にお渡し。各種割引適用不可)

申込／2026年4月29日(水)9:00～5月13日(水)17:00までにサントミュージー
ゼホームページ応募フォームから。

－ 詳細はホームページをご覧ください。－



https://www.santomyuze.com/museumevent/utokusii_utopiaten_2026/

上田市は「SDGs 未来都市」です。



上田市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

【お問い合わせ先】

サントミュージーゼ 上田市立美術館 (火曜休館)
〒386-0025 長野県上田市天神三丁目 15-15
TEL:0268-27-2300 FAX:0268-27-2301
artmuseum-promotion@city.ueda.nagano.jp
広報担当：竹下 事業担当：山極

企画展「美しいユートピア 理想の地を夢みた近代日本の群像」

広報用画像申込書

下記の表の、御希望の画像に○印をつけて FAX もしくはメールにて御返信ください。
掲載の際は作品名等を必ず表記ください。作品のトリミング、文字のせは不可です。
掲載後に掲載紙・誌を1部お送りいただきますようお願いいたします。



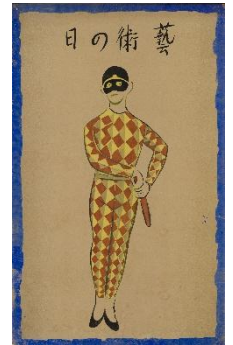
1



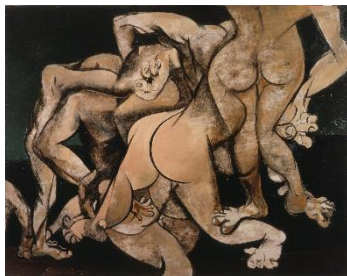
2



3



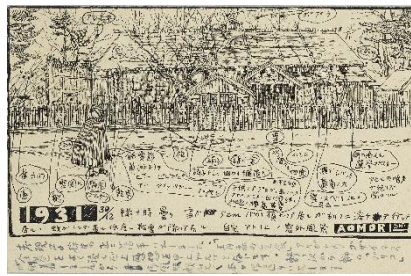
4



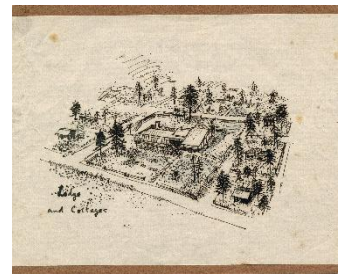
5



6



7



8



9



10



11



12

番号	作品名、クレジット等
1	ブルーノ・タウト「ヤーンバスケット」1934-36年、群馬県立歴史博物館蔵
2	宮澤賢治《日輪と山》制作年不詳、林風舎蔵、資料提供＝林風舎
3	竹久夢二《榛名山賦》(複製)1931年、公益財団法人竹久夢二伊香保記念館蔵
4	山本鼎「芸術の会ポスター《芸術の日》」1922年、上田市立美術館蔵
5	鶴岡政男《夜の群像》1949年、群馬県立近代美術館蔵
6	松本竣介《立てる像下絵》1942年、神奈川県立近代美術館蔵
7	今純三「考現学調査葉書 自宅アトリエの窗外風景」1931年、工学院大学 学術情報センター工手の泉蔵
8	立原道造《Lodge and Cottages》1937年、軽井沢高原文庫蔵
9	工学院大学建築学科伊藤ていじ研究室「旧海野宿南北断面図」1979年、工学院大学 学術情報センター工手の泉蔵
10	ウィリアム・モリス著、ケルムスコット・プレス刊『ユートピア便り』1892年、TOPPANホールディングス株式会社 印刷博物館蔵
11	瀧澤眞弓「日本農民美術研究所設計図 1・2階平面図、立面図、断面図」1922年、上田市立美術館蔵
12	アントニン・レーモンド「群馬音楽センター内観透視図」1958年、レーモンド設計事務所蔵 ©The Raymond Family

◆ 貴社名

◆ 御担当者名

◆ 電話番号

◆ Email

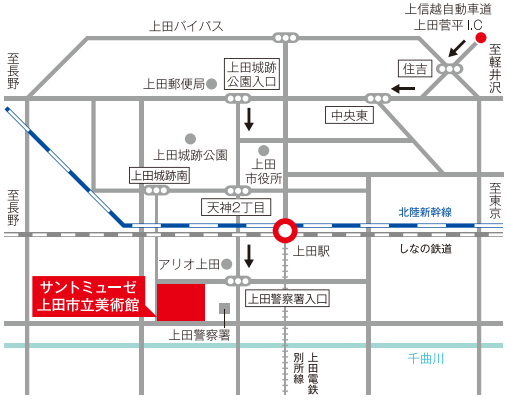
観覧料	
前売(一般のみ)	1,000円
一般(当日)	1,200円(1,100円)
リピート割引(要半券提示)	1,000円
高校・大学生(要学生証提示)	500円(450円)
小・中学生	300円(250円)

* ()内は20名以上の団体料金。障害者手帳携帯者は半額、介助者1名は無料。*同チケットで山本鼎コレクション展示もご覧いただけます。*会期中、一部展示替えがあります。



サントミュージゼ
UEDA SANTOMYUZE
上田市立美術館
Ueda City Museum of Art

〒386-0025 長野県上田市天神三丁目15番15号
tel 0268-27-2300
https://www.santomyuze.com/museum/
交通のご案内=北陸新幹線、しなの鉄道、上田電鉄別所線「上田駅」から徒歩約7分。上信越自動車道「上田菅平I.C.」から車で約15分。



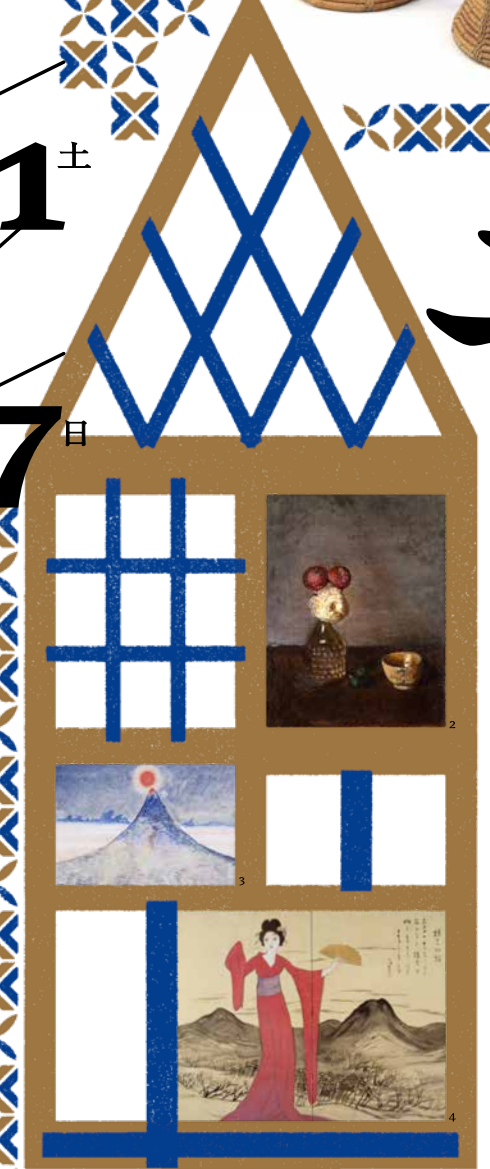
次回展覧会
大阪城・上田城友好提携20周年記念
豪華絢爛 秀吉と桃山文化
—大阪城天守閣収蔵品選
日時=7月18日(土)→9月6日(日)

理想の地を夢みた近代日本の群像
Beautiful Utopia: Visions of an

休館日=火曜日 5/5(火)・6(水)は開館、7(木)は休館
開館時間=9:00~17:00(入館16:30まで)
主催=ユートピア展上田実行委員会(上田市・上田市教育委員会・テレビ信州) 後援=一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本建築家協会
企画協力=株式会社TNCプロジェクト
会期中、一部展示替えします。詳細は当館ホームページにて4月11日以降公開します。

2026

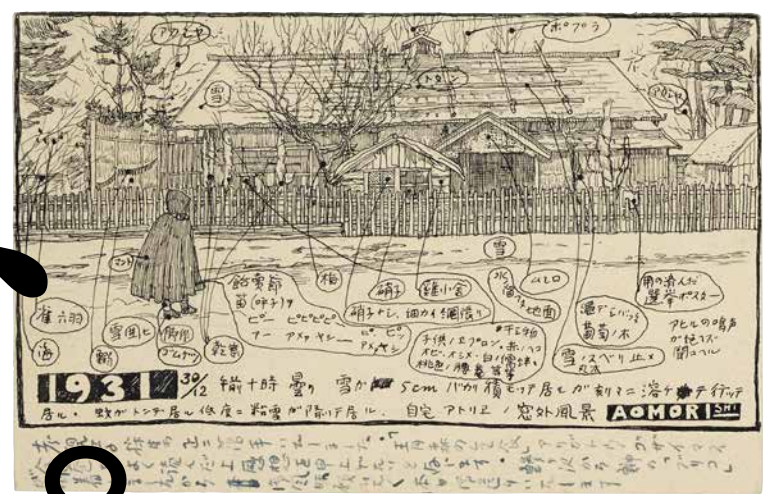
4
11
6
7



1. ブルノ・タウト「ヤーン・スワウ」1934-36年、群馬県立歴史博物館蔵 | 2. 横濱岡次郎「静物」1922年、群馬県立近代美術館蔵 | 3. 宮澤祐治「日輪・山」制作年不詳、群馬県立歴史博物館蔵 | 4. 竹久夢二「二葉山」1922年、上田市立美術館蔵 | 5. 山本鼎「集落」1931年、公益財団法人村久夢二保存会蔵 | 6. 山本鼎「集落」1931年、公益財団法人村久夢二保存会蔵 | 7. 山本鼎「集落」1931年、公益財団法人村久夢二保存会蔵 | 8. 岸田彌生「B.L.の肖像」1913年、東京国立近代美術館蔵

1. Bruno Taut, Woven bamboo sheath yarn basket, 1934-36, Gunma Prefectural Museum of History / 2. Kakujiro Yokobori, Still Life, 1922, The Museum of Modern Art, Gunma / 3. Kenji Miyazawa, Sun and Mountain, n.d., Collection of RINPOOSYA / 4. Yumiji Takehisa, Haruna Sanfu (Reproduction), 1921, Takehisa Yumiji Ikaho Memorial / 5. Kanae Yamamoto, Poster of the Art Day organized by Association for Art, 1922, Ueda City Museum of Art / 6. Masao Tsuruoka, Night Figures, 1949, The Museum of Modern Art, Gunma / 7. Shunsuke Matsumoto, Study for Standing Figure, 1942, The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama / 8. Ryusei Kishida, Portrait of Bernard Leach, 1913, The national Museum of Modern Art, Tokyo

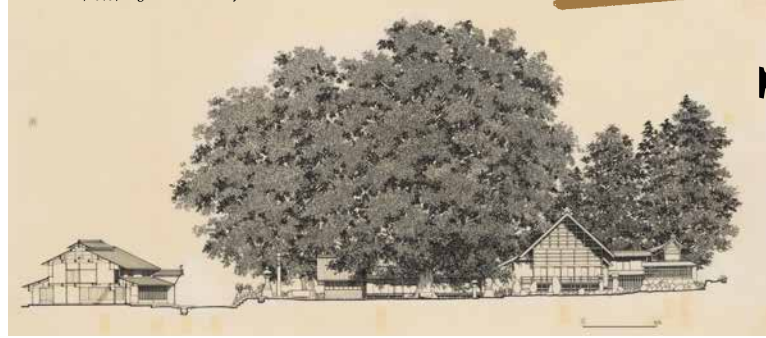
美しいユートピア



9. 今純三「考現学調査案書 自宅アトリエの窓外風景」1931年、工学院大学 学術情報センター-工手の泉蔵 | 10. バーナード・リーチ「生命の木」のモチーフのある湯呑」1913-17年、個人蔵(梅原龍三郎旧蔵) | 11. 寺田政明「谷中真島町(モデル板付近)」1932年、板橋区立美術館蔵 | 12. 立原道造「猪野露二に贈った椅子」1938年頃、個人蔵 | 13. 立原道造(Lodge and Cottages) 1937年、軽井沢高原原文庫蔵 | 14. 「早川孝太郎氏九州遊学送別会にて、民具を身につけたアチックの同人」1933年11月4日、神奈川大学日本常民文化研究所蔵 | 15. 宮澤賢治「無題(月夜のてんしんばしら)」制作年不詳、群馬県立歴史博物館蔵 | 16. 木川半之丞「1933年に竣工したアチック・ミュージアム新館」、撮影=1936年3月30日、神奈川大学日本常民文化研究所蔵 | 17. バーナード・リーチ「彌宗悦の肖像」1918年、日本民藝館蔵 | 18. 工学院大学建築学科伊藤ていし研究室「旧海野宿南北断面図」1979年、工学院大学 学術情報センター-工手の泉蔵



9. Junzo Kon, Modernology investigation postcard, depicting a landscape outside his atelier at home, 1931, Kogakuin University / 10. Bernard Leach, Cups with Tree of Life Design, 1913-17, Private Collection (Ryuzaburo Umehara Collection) ©The Bernard Leach Family. All rights reserved, DACS & JASPAR 2025 E6171 / 11. Masaaki Terada, Majima-cho, Yanaka (Near Modern-Zaka), 1932, Itabashi Art Museum / 12. Michizo Tachihara, Chair gifted to Kenji Iino, c.1938, Private Collection / 13. Michizo Tachihara, Lodge and Cottages, 1937, The Literary Museum of Karuizawa / 14. Members of the Attic Museum wearing folk implements at the Farewell Party for Kotaro Hayakawa's Study Trip to Kyushu, 1933.11.4, Institute for the Study of Japanese Folk Culture Kanagawa University / 15. Kenji Miyazawa, Untitled (Denshinbashira on a Moonlight Night), n.d., RINPOOSYA / 16. Photographer: Hanneko Kigawa, The Attic Museum building (completed in 1933), Photographed on: 1936.3.30, Institute for the Study of Japanese Folk Culture Kanagawa University / 17. Bernard Leach, Portrait of Muneyoshi Yanagi, 1918, The Japan Folk Crafts Museum ©The Bernard Leach Family. All rights reserved, DACS & JASPAR 2025 E6171 / 18. Teiji Ito Laboratory, Department of Architecture, Kogakuin University, Unnojuku, north-south cross-section, 1979, Kogakuin University



Ideal World in Modern Japan

想の地を夢みた近代日本の群像

Utopia

美

日の術 藝



Visions of an Ideal World in Modern Japan



ユ

ト

ピア

ユートピアは、イギリスの思想家トマス・モアの著作タイトルで、「どこにもない場所」を意味します。

同じくイギリスの社会思想家、ウィリアム・モリスは自著『ユートピアだより』の中で、暮らしと芸術の総合を唱え、今ここにある課題をみつめ、どこにもない理想を夢んでいます。その思想が紹介された20世紀の日本でも、ユートピアは暮らしをめぐる課題と理想となりました。そして20世紀を通じあらゆる場所で、美術、工芸、建築など幅広いジャンルを結ぶ共同体が模索されます。新時代の異文化体験を通して近代化しつつあった日本は、かつての日本でもなく、同時代の世界のどこにもない場所だったのです。

この展覧会では暮らしにまつわる過去をたずね、未来を夢みるさまざまな運動を、「ユートピア」と呼びます。そして「美しさ」にまつわる芸術、装飾工芸、建築デザインにテーマを絞り、暮らしの中の「美しいユートピア」をみつめます。さらに「美しいユートピア」の歴史をたずねるだけでなく、未来への手がかりとします。美しい暮らしを求める20世紀日本のユートピアをたずね、当時の来るべき世界を振り返り、今日のユートピアを思い描く方法を探ります。

19. ウィリアム・モリス著、ケルムスコット・プレス刊『ユートピア便り』1892年、TOPPANホールディングス株式会社印刷博物館蔵 | 20. 瀧澤真弓、日本農民美術研究所、撮影=1923年、上田市立美術館蔵 | 21. アントン・レーモンド「群馬音楽センター内観透視図」1958年、レーモンド設計事務所蔵 | 22. 玉生道経撮影「北設楽郡本郷町中在家の花祭朝鬼面」1933年10月2日-3日(推定)、神奈川大学日本常民文化研究所蔵

19. William Morris, (author and designer), News from Nowhere, 1892, TOPPAN Holdings Inc. Printing Museum, Tokyo / 20. Mayumi Takizawa, Nihon Nomin-Bijutsu Kenkyujo (Japan Peasant Art Institute). Photographed in: 1923, Ueda City Museum of Art / 21. Antonin Raymond, Gunma Music Center, perspective, 1958, Raymond Architectural Design Office ©The Raymond Family / 22. Photographer: Tamayutsu Michitsune, Hana festival morning demon mask from Nakanzeiki, Hongo, Kita-Shitara District, Aichi, Photographed on: 1933 10 2-3 (estimated), Institute for the Study of Japanese Folk Culture Kanagawa University

Utopia, meaning “nowhere,” is the title of a work by the English philosopher Thomas More (1478-1535).

Similarly, British social thinker William Morris (1834-1896) advocated for the integration of life and art in his book *News from Nowhere*, focusing on the issues of his time and dreaming of an ideal world that does not yet exist. When this concept was introduced to Japan in the 20th century, utopia became an object of aspiration and an ideal for everyday life. Throughout the 20th century, communities that linked a wide range of genres, including art, crafts, and architecture, were sought after in various places. Through the cross-cultural experiences of this new era, Japan was modernizing and becoming neither the Japan of the past nor like any other place in the world at that time.

This exhibition revisits the history of daily life and refers to the various movements that dreamed of the future as “utopias.” Focusing on the themes of art, decorative crafts, and architectural design related to the concept of “beauty,” we seek to discover “beautiful utopias” within everyday life. Not only do we explore the history of “beautiful utopias,” but we also use them as a clue for the future. We examine the utopias of 20th-century Japan that sought a beautiful way of life, look back on the worlds they envisioned, and search for ways to imagine the utopias of today.

関連イベント

1. 記念講演会

祖父、清六から聞いた 宮澤賢治

宮澤賢治とは、どのような人だったのでしょうか。賢治の実弟・清六氏の孫にあたる宮澤和樹氏をお招きし、「賢治さん」の美術・宗教・科学に対しての考え方、日常での様子、『雨ニモ負ケズ…』の願いなど、家族こそが知るその姿をうかがいます。

講師=宮澤和樹氏(宮澤賢治の実弟清六の孫、株式会社 林風舎代表取締役)

日時=5月9日(土)午前10時~11時30分

場所=多目的ルーム

定員=60名(事前申込制・先着)

料金=無料(本展の観覧券または半券が必要です)

2. 企画3館の学芸員によるギャラリートーク

4月18日(土)午後2時~

[ゲスト]住田常生氏(高崎市美術館)

4月25日(土)午後2時~

[ゲスト]大村理恵子氏(バナソニック沙留美術館)

5月23日(土)午後2時~

山極佳子(上田市立美術館)

会場=美術館2階展示室

料金=無料(本展の当日観覧券が必要です。*申込み不要)

3. ミュージアムコンサート

群馬交響楽団 弦楽四重奏 ナイトミュージアムコンサート

当サントミュージゼの定期演奏会でもおなじみの群馬交響楽団から、弦楽四重奏をお招きしての演奏会。楽団が拠点としていた群馬音楽センター(図版21)に思いをはせながら、夜の展示室で音楽と美術を楽しんでみませんか。(※詳細は当館ホームページでお知らせします)

会場=美術館2階展示室

定員=50名(事前申込制・先着)

申込・詳細はホームページをご確認ください

https://www.santomyuze.com/museumevent/utokusii_utopiaten_2026/

上田市立美術館

21